

令和5年度 第4回守谷市通学区域審議会会議 議事録

1 日 時 令和5年 12 月 14 日(木) 10:00～12:10

2 場 所 守谷市役所1階 大会議室

3 出席者

○委員 (15 名中14 名出席) 以下、敬称略

- ・藤井穂高(国立大学法人筑波大学人間学群教授) ※会長
- ・越智壽雄(守谷市校長会会長) ※副会長
- ・中野比呂志(守谷市校長会副会長)
- ・荒井弘勝(守谷小学校校長)
- ・奈幡 正(黒内小学校校長)
- ・中原卓治(郷州小学校校長)
- ・木下悦郎(松ヶ丘小学校校長)
- ・片岡正美(愛宕中学校校長)
- ・吉田あゆみ(守谷市 PTA 連絡協議会会長)
- ・佐藤若菜(守谷市 PTA 連絡協議会副会長)
- ・永井祐介(守谷小学校 PTA 会長)
- ・山本広行(松ヶ丘小学校 PTA 会長)
- ・村山 守(守谷 C 地区まちづくり協議会会長)
- ・古屋正博(守谷 B 地区まちづくりふれあい会)
- ・星野陽子(ひがし野まちづくりの会)

○事務局

- ・小林教育部長、古橋参事
- ・学校教育課 前川課長、坂本課長補佐、菊地係長、中北主任、岡野主任
- ・㈱ちばぎん総合研究所 調査部 福田

4 会議内容(発言の主要部分を掲載)

(1)会長あいさつ

- ・本日はお忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。黒内小学校の対策について、佳境に入ってきており、今回と次回の 1 月あたりで目途をつけたいと考えている。
- ・資料が充実したものになっているので、丁寧の説明いただいて、今回は決めるというより絞り込む形になると思うが、活発なご議論をいただきたい。よろしくお願いいたします。

(2)議題

①過大規模校からの就学校変更結果について

【事務局】

- ・資料 No.2「過大規模校からの就学校変更結果について」を報告

【会長】

- ・ご質問があればお願いしたい。
→ 質問なし

②黒内小学校通学区域変更(案)について

【事務局】

- ・資料 No.3「推計等の想定条件について」、資料 No.4「黒内小学校通学区域変更(案)について」を説明。

【会長】

- ・様々なシミュレーションをしていただいた結果、モデルケースが絞られてきた。
- ・本日は大きなところを議論していただくが、具体的な数字が出てきているので、わかりにくいところなどあればご質問をお願いしたい。

【委員】(質問)

- ・資料 No.3 3P(2)対策実施期間の考え方で、「黒内小学校児童数が 800 人台となったときに継続是非を検討する」とある。児童数 800 という数字はどのような状態を指すか。

⇒【事務局】

- ・移動していただいた結果 800 人台となった時点で、再度細かい推計を行い、今後の減り具合や1年生を戻したらどうなるかを検証して、移動終了の時期を検討したい。

⇒【古屋委員】

- ・わかりました。

【藤井会長】

- ・他にいかがでしょうか。

【委員】(意見)

- ・様々なシミュレーションから、児童数のイメージがよくわかった。モデルケースが3つ示されているが、黒内小学校は、数字だけで言うと(3)の対策を実施しても令和7年度は1,323 人となり、箱ものとしても厳しい。(1)は現状と近い数字、(2)は令和6年度の限界と変わらない数字という印象を持った。
- ・黒内小学校児童数は現在 1,175 名。転入生が増えると、事務局で試算いただいた1,300 人+ α になる。令和6年度は、普通学級が 38 学級(令和5年度+3学級)、特別支援学級が 11 学級(同+2 学級)で、49 学級に増える見込み。学級人数上限に近い学級もあり、転入生が来れば、学年によっては学級が増えて 50 学級以上になることも想定している。既に、理科室、音楽室、家庭科室といった特別教室以外は普通教室に変わり、令和6年度は箱ものとしても満杯。新1年生の移動だけでは効果がない。全学年対象で移動いただき、最大でも今年の1,175 人より抑える策が急務だと思っている。

【会長】

- ・(3)の案では難しいということである。新入生だけであれば移行がスムーズということ
でこの案を提案いただいたが、教育活動に支障が出るため、ある程度の対象地区をし
ばって、全学年を移すモデルケース(1)しかないということになる。
- ・資料3の通学区域の変更をまず実施した上でスクールバスでの移動でよろしいか。でき
るだけ児童数を減らすため、守谷小学校児童数が多かったときに通学区域を変更した
経緯も踏まえ、それを元に戻すこと、安全のために幹線道路を跨がないようにすること
は、合理的な説明として十分成り立つので、そこはお認めいただいたということによ
ろしいか。
- ・事務局の原案通り、(1)②で黒内小学校の児童数を減らした上で、スクールバスによる
移動を考えることでお認めいただいた。

【委員】(意見)

- ・通学区域の変更について、黒内小学校より移動先の小学校が遠くなるというのは納得
できない。近ければメリットを感じるが、わざわざ遠くの学校に行くのはデメリットしか
なく、地域が取り残された印象を受ける。ひがし野1丁目と4丁目、中央4丁目から通学
する児童は遠くなってしまう上、移動人数も多くないので考慮していただきたい。

【委員】(意見)

- ・学区についてだが、審議会では通学時間 20 分が妥当としているが、守谷小学校の通
学区域の中には徒歩で 30 分以上かかる距離の地区もある。それでも一番近いからと
いうことで細い道、山の中を通して登校している。以前は、松並青葉3丁目・4丁目や、
つくばみらい市筒戸の手前辺りも守谷小学校区であった。このような実情を鑑みれば
通学時間 20 分という点を配慮して区域を考えるというのは妥当性がある。
- ・守谷小学校は普通教室に余裕がある。令和 6 年度からの対策である「過大規模校から
の就学校変更希望申請」では、守谷小学校へ 30～40 人希望があるのではと思ってい
たが 0 人だった。
- ・1～6年生まで全児童を対象に通学時間 20 分での大胆な割振を徹底しないと、黒内
小学校は限界にきている。スクールバス導入の話も出たが、距離と交通量により、大胆
に考えていく妥当性はある。守谷小学校も、もっと受け入れることが可能な施設である
ことを鑑みて、ご審議いただきたい。

【会長】

- ・教育条件という意味では困難な状況になっているので、できるだけ協力していただい
て、来年度は持ちこたえていただくしかないが、再来年度からは減るような工夫を考え
ていくしかない。

【委員】(意見)

- ・学区変更にあたっては、保護者にどのように理解してもらうかが重要であり、情報提供
はできる限り早い方がよい。以前、学区変更をした際には、どうしても行きたくない人

は残ることが可能という選択制としたので、残った人が多かった。

- ・黒内小学校は、理科室、図工室では授業ができない状況で、体育もグラウンドを3分割して使用している。実情を考えると、いち早い周知が必要で、今年度中にも周知実施すべきだと思う。市民に対してのアピールは早急に対応するべきで、時間がない。

【委員】(意見)

- ・該当地区の保護者に聞くと、在校生や兄弟がいる人は関係なく、新入生からが対象と思っているか、まったく知らないかのどちらかである。周知はできるだけ早くするべき。
- ・守谷小は1,000名規模だが受入人数が少ない。郷州小学校は840名規模で、スクールバス導入による移動先となると、多くなってしまうと感じた。受入先の小学校の教室が足りなくなならないよう、もう少し細やかな配置が必要ではないか。
- ・新入生を対象とすると効果が出るまで6～7年かかる。全学年対象であれば効果はすぐに出るが、自分の子どもが通っているとなると、教育的な部分で心配がある。

【委員】(意見)

- ・授業やシステム、学校文化が微妙に違う面など、保護者の心配はとても共感できる。一方、守谷市は教育委員会が学校の平準化に尽力してきているので共通事項が多く、学校が変わっても子どもの戸惑いは少ないのではないか。一番の問題であるGIGAスクールに関しても、学校による差はない。学校行事の違いはあるが、黒内小学校の子どもたちからしたら、現在は沢山の制約を受けているので他校の学校行事は楽しいと思う。保護者の心配は分かるが、受入側としても配慮することをアピールし、行政からは教育水準が整っているでそこまでの心配が要らないということを実地するなど、協力し合って保護者の心配を吸い上げる対応をするべき。まずは、保護者にどうアプローチするかを考えていかないとならない。しっかり情報共有した上で実施すれば、保護者の心配は軽減され、6年生でも行かせようとなるのではないか。
- ・学校にとっても、クラスが増えれば先生の数も変わり、何人入ってくるか次年度の見通しが持てることはすごく重要。学校の人事の悩みを解消するためにも、情報共有の場を同時進行で考えていく必要がある。

【会長】

- ・他にいかがですか。

【委員】(意見)

- ・想定としては変更先学区の中学校に通うことになるが、子どもは自転車通学なのであまり影響はないが、授業参観など学校へ行く際の保護者の交通手段対応まで説明できないと、全学年動かすことは難しいと感じた。

【委員】(質問)

- ・学校にお聞きしたい。理想は全学年動かすべきと思うが、その分説明が必要になったり、保護者からの反発が大きいことが予想される。新入生の児童数が一気に少なくなっても、学校運営に影響はないのか。全学年で均等に減らさないと学校運営は難しいので

はないか。

⇒【委員】

- ・難しい問題だが、縦の学級のバランスはすごく大事だと思っている。来年度の新1年生は8クラス、次の新入生が3～4クラスになると、色んな行事をするにしても、バランスが悪い。やりようだと思うが、一部の学年が極端に減るのは望ましくないと思う。

⇒【委員】

- ・1年生を減らしても、やがて高学年になる。学級数が変わると授業の問題が出てくる。特別教室を使用する図工、理科、音楽では、仮に学級数が8学級の学年があって、次の学年は3学級、となると教室采配の問題が出てくる。ある程度計画的に減らしていくことが必要で、まずは全学年の変更を提案する流れがあって然るべきだと思う。
- ・1つ配慮するとすれば、特別支援学級の子に関しては、環境が変わると戸惑いが大きい子もいるため、教育的な配慮としてそのあたりは相談の余地を残しつつ、児童数減を狙いとするならば、原則1～6年の変更が現実的だと感じている。

⇒【委員】

- ・現在の5～6年生は各5学級で、理科室と図工室は週3時間ブッキングしてすべて埋まっている。6～8学級の学年の子どもたちが高学年に上がってくる令和7年度あたりには使えなくなる見通しで、特別教室を調整する良い解決策がない。学年によって学級数に差があるのは、そのような面からも望ましくない。

【委員】(意見)

- ・東京都はほとんどの区で自由選択制となっている。自由学区がはじまった当初は、なかなか動きがなかったが、現在では、学区外の子どもたちもかなり通学している。東京都の子どもたちは、学校の特色を見て学校を決めることがスタンダードになっているので、今回(の就学校変更希望結果)は、学校選択にあまり意味がなかったような結果になっているが、各校が自校の特色をアナウンスしていくことで、自由学区の移動が大きくなってくると思う。
- ・中央区の小学校では、勝どき周辺地区はオリンピックバブルで子どもが増えたが、有楽町近辺は減っている。スクールバスを出すことで、特認校に人数の多い学区の生徒が通っており、バランスをとっていると聞いている。小規模校も順調に人数を増やしているようだ。スクールバスを出すメリットがあれば、保護者も気持ちよく移動できると思う。
- ・松並青葉に新設校を作るのであれば、松並青葉の子が全学年移動することと変わらない。黒内小学校の減少を考えれば、新入生だけでなく大規模な減少を図っても良いのではないかと感じた。

【会長】

- ・他にいかがですか。

【委員】(意見)

- ・松並青葉4丁目はまだ空き地がある。土地の購入希望者に、バスが出る可能性があるなど示唆することで、選択も変わると思うので、そのような計画性も必要だと思う。

【委員】(意見)

- ・保護者の中には、黒内小学校に通わせたいから松並青葉に家を建てたという人もいる。上の子が通っているから移動するつもりはない、関係ないという保護者が多いのが現状ではないか。子どもたちが移動して良いと思っても、保護者がそう思わない限り移動しない。
- ・話を伺っていて、保護者向けに、うちの学校はこんな良いところがある、ウェルカムというアピールの場を設けていただきたいと思った。守谷小学校はウェルカムだと言われた保護者からすると、黒内でなくても良いという気持ちが芽生え、ご協力いただける方が増えるのではないか。

【委員】(意見)

- ・学校の特徴より、守谷市はどこの小中学校に通っても同じシステムで同じ教育の質が担保されていることが強みでないかと思う。こんな市町村は他にない。そういうところをアピールすることで、安心して変更できるのではないか。
- ・市内の全校で、学習指導・生徒指導、各問題に目を背けず、当たり前のことをやっている。学校の特色ではなく、守谷市はどこに行っても素晴らしい教育を受けられるというアピールができると思う。保護者の悩みを聞く機会を一刻も早く設けないと、この話は絵に描いた餅になってしまう。個人的には、守谷小学校としてはウェルカムなので、通学時間を少し伸ばしても大丈夫ではないかと、市民、保護者に耳を傾けてもらう機会を設けるべき。そこを共有することで、通学区域の割振がより円滑になってくる。保護者への説明は、絶対今年度中にやった方が良いと思う。

【委員】(意見)

- ・このような機会を今年度中に設けることは可能か。ぜひご検討いただきたい。

⇒【事務局】

- ・事務局としても、早めに地域に情報提供した方が良いという話はしていたが、説明の場を設けても、方向性を何もお答えすることができない状況だったので実現しなかった。進め方が遅くなってしまったことを反省している。本日、対策案について合意が得られれば、地域の役員に話を下ろして、課題に対する御意見をいただき、条件を揃えた上で、地域の説明会をしていく流れにしていければと思っている。今のところ、通学区域の変更をすること、全学年に協力を呼び掛けてみることにしか決まっていない。対象区域が見えていないが、そこまで協議できれば年内にでも関係する地域や、在校生保護者であるPTA役員に、まずは説明していきたい。早ければ早いほど年内にそういった会は設けられると思うが、正式な説明会は、この審議会ではまず答申をいただいて教育委員会の承認をいただいてからの動きとなる。本日、対象区域までの案をいただければ、地域への情報提供は可能と考えている。
- ・また、守谷小学校にもう少し移してはという案があったが、我々もシミュレーションをし

ている。1,000 人規模という目安は、保有教室33教室×学級上限人数35人で算出しており、あくまで目安の受入人数である。守谷小学校にバス移動させる案もシミュレーションしたが、教室数が不足する可能性が生じた。また、進学先の愛宕中学校にも影響がある。そのため、守谷小学校については、徒歩圏通学区域の変更で、受入可能な範囲で受け入れていただくという形にしたいと、事務局として結論づけた。ご提案のとおり、今後は、就学校変更希望制で守谷小学校が選ばれることを期待している。

【会長】

・色々ご意見いただいて、喫緊で動かなければいけないという強いご発言もあった。しかし、教育委員会とすると答申を待たないと正式には動けないだろう。

【事務局】

・正式には動けないが、地域の意向確認については、すぐに動き出したいところではある。

【会長】

・ひがし野については、地域とすると納得できないという意見もあったが、そんなに遠くなることでもないのだから、これはやらざるを得ないのではないかな。できることはやった上で、スクールバス移動策を行うということにしないと、地域の方の理解は得られないと思うので、対策(1)②についてはお認めいただくということで良いかな。

【委員】(質問)

・対策(1)②について、登下校の安全性確保のため幹線道路で区切るとすれば、中央1丁目は路線で区切られており、なぜ変更対象から外れたのか。松並青葉も守谷小学校区だったことを踏まえると、ひがし野の方は納得できないのではないかな。

⇒【会長】

・ごもっともな疑問である。元々、黒内小学校区だったのか。

⇒【委員】

・この辺りは、元々守谷小学校区だったのでは。地域の意見として聞いていただきたいが、ここは踏切問題がある。関東鉄道の路線で分かれているが、踏切を通過して遠回りすることになるため、黒内小学校に行かせた方が安全である。通学区域の変更対象から外すことについては妥当性がある。地図で見えない距離があるので、このような区切りになっているのではないかな。現地を見ていただくと納得いただけると思う。

【永井委員】(質問)

・駅の中は、通学路として設定することは可能なのかな。この地区についても、駅を通れば安全性を確保できるのではないかな。

⇒【事務局】

・市の道路なので通って通学することは可能。

【会長】

- ・このあたり明確でないところがあるが、ここ以外の部分はお認めいただいたということ
でよろしいか。

⇒【委員】(意見)

- ・合理的な了承が得られるのであれば、ここもエリアとして入れて良いと思う。

⇒【事務局】

- ・中央1丁目は幹線道路を跨いでおり、中央1丁目で区切ると、場所によっては目の前に
黒内小学校があるのに別の学校に通うことになってしまう。
- ・先ほど海老原町についてのお話があったが、海老原町については黒内小学校ができた
とき、当初から黒内小学校区になったと記憶している。

【委員】(意見)

- ・黒内小の適正化を図るために全学年移動させなければならないことは認識しているが、
郷州小学校の細かい点をみると、一見余裕があるように見えるが、特別支援教室を含
めると 21教室必要になる。細かい現状を鑑みないシミュレーションをして、実際やって
みたら教室が足りないなど弊害が出てくることが怖いと感じた。
- ・また、児童クラブ増の場合、受入人数に応じて 6 教室のどこか及びイングリッシュル
ームを使用とあるが、イングリッシュルームは3階なので、防犯上の懸念から、適してい
ないのではないかと思います。ご検討いただきたい。

【会長】

- ・具体的に入らないということであれば、計画を再編成しなければならないので、新たに
考えていく必要がある。

【委員】(意見)

- ・早期に周知を図るということで熱いご意見もあったが、今まで進めてきたものを鑑み
ながら、年度の区切れも総合してやっていただきたい。
- ・また、今年度は 5 名の方が就学校変更しているという点について、後からこうなりまし
たと新たな提案があると、対象のご家族はびっくりすると思う。年度内に早急に周知し
ておくべき。個別に申請のあった方へも、丁寧な周知とケアが必要。幸い、5件なので個
別に対応できるのではないか。

【会長】

- ・対策が、令和 6 年度から、令和 7 年度からと、五月雨式になってしまっているので、苦
戦しているところもある。貴重なご意見ありがとうございます。
- ・対策(1)②はこれでよろしいか。原則としては、これでお認めいただいたということとし
たい。スクールバスについては3案出ていたが、現状を考えるとモデルケース(1)しか
ない。移動するのが1年生だけでは難しい。学年ごとの数が変わることも望ましくないとい

うことであれば、地域を区切って、まとめて移動いただくことが原案になる。ということは(1)の1択になる。

⇒【事務局】

・理想は松並青葉の3・4丁目の全学年で、これは数字を見れば一目瞭然だが、まだ地域のご意見を聞いておらず、反対される方が多い懸念もあるため、できれば2案は持っていきたいと考えている。在校生については、希望選択制とする方法もある。ここでは松並青葉1～4とレーベンは除外となっているが、他のパターンもある。そういったシミュレーションもお示しするので、判断材料としていただきたい。

【藤井会長】

・そうすると、どこまで決めておけばよいか。(3)のこのシミュレーションだと黒内は大変厳しいということなので、このままの案を審議会で認めることは難しい。

⇒【事務局】

・資料には載せていないが、松並青葉2～4丁目の新1年生のみを移動対象とするシミュレーションも行っている。この場合、1つの学校にまとめて動かすと教室不足になるので難しいという結論に達したが、2丁目を郷州小学校、3・4丁目を御所ヶ丘小学校に分けた場合、黒内小学校は令和9年度まで1,200人、令和11年度まで1,000人台、令和12年度に800人台となり、松波青葉3・4丁目の全学年と同じような状況までもっていける結果が出た。ただし、バスの確保が問題となる。移動人数が多く、2つの学校というところでバスの台数がかさむ。ピーク時は、大型7台、中型1台の確保が必要になるため、現在、市内事業者に確保可能台数を確認しているところである。3～4台なら大丈夫という回答はいただいている。

【委員】(質問)

・バス会社からの回答はいつ出るのか。

⇒【事務局】

・バス会社の方も、どのくらい人数が動くのかははっきり決まらなないと回答できない状況である。

⇒【委員】(意見)

・バスを基準に考えるのではなく、バスが足りないのであれば、別の会社なり手広く確保していく必要がある。ダメそうだから辞めておくという議論は、このステージに載せない方がよい。

⇒【事務局】

・現在、市内2事業者を確認しているが、1事業者からは難しいと回答がきている。市内事業者での確保が難しい場合は、市外の事業者も含めて可能性を検討していくことになるが、市外事業者になるとバス料金が高くなる。

【委員】(意見)

- ・今回、安全性という方針は決まった。松並青葉の問題が残っているが、バス、徒歩のどちらもあるところも含めて、納得できるようお示した方がよい。選択肢として、松並青葉は3・4丁目を切り分けなければいけない段階にきている。一緒にするから学校があふれてしまうので、3丁目なら徒歩でも行けるのではないかと、松波青葉地区には申し訳ないが、丁目や人数に応じて振り分けられる方法も検討した方がよいのではないかと。

【会長】

- ・黒内小学校に行こうと思ってここに住んだのに、という方には厳しいが、他に選択肢がないため、人数的にはここにターゲットを絞らざるを得ない。ここに住んでいる方には大変申し訳ないが、何とかご理解を得るしかない。
- ・新たな案も出てきており、どこまでまとめたほうがよい。今日の議論では、委員の皆様のご意見はモデルケース(1)だが、これでは合意が得られない可能性がある。

【委員】(意見)

- ・モデルケース(1)を中心に詳細をつめないと、結論が出ないと思う。教育委員会でも実現可能性がある案を検討いただいて、2～3案で地域への説明会を開いてはどうか。

【会長】

- ・ここまでの議論では(1)以上は合意が得られていない。不確定要素が多いが、地区説明会に持っていけるか。全学年となると、ますます松並青葉の皆さんには、できるだけ早めに伝えたほうがよい。
- ・最終的には教育委員会が学校を指定することになっているので、権限で決めることはできるが、あまりに反対が多いと、教育委員会でも無理やり決めるのかという話になる。

⇒【事務局】

- ・決定しても陳情書が出され、白紙に戻さざるを得なくなる可能性もあり、それはなるべく避けたい。地域に入っていく場合は、具体的で納得性があるものを持っていき、ご理解いただけるようにしたい。

【会長】

- ・まだ審議会で決まっていないので、正式に入っていくのは先になる。まずは、対策案として反応を聞いていただき、次回持ってきていただきたい。

【委員】(意見)

- ・私の住んでいる地区には、自治会、子ども会、母親の会と3つの階層がある。毎年10月に開催している松並フェスティバルは、4地区の自治会と子ども会が合同で開催しており、まとまりもある。今後の進め方の案として、子ども会の役員にまず声をかけて、いくつかのアバウトな案を提示して、相談ベースで進めてはどうか。

・学校変更について、条件にもよるが、大半の方は冷静に聞いていただけたと思う。早めに説得力のある資料ができるかが、とても大事だと思う。

【会長】

・今回は、地区の反応を聞いてきていただくのと、新たなパターン案、守谷小学校の受入について、実現可能なのか検討いただき、出すことになるか。

⇒【事務局】

・守谷小学校については、特別支援教室を含めて 33 教室なので、守谷小学校の可能性を考えるのであれば、もう少し通学区域を変更しても可能な区域があるかというパターンになると思う。

・本日の審議会では、通学区域の変更、幹線道路での区切り、スクールバスの導入について、1つの提案として松並青葉3・4丁目の変更について、ご理解いただけたと考えている。プラスαとして、想定するパターンを情報共有した上で、地域の役員の方に持って行って良いか。

【会長】

・地域の理解が得られないから黒内小学校が今のまま、ということはありませんので、最終的には教育委員会の判断になる。ただし、できるだけ合意は得てからの方が良いと思う。その辺りは難しいが、最後の案については、委員の皆さんにお送りするのでご理解いただいたということにして、今回は松並青葉の方々と相談した結果を持ってきていただき、さらに検討することとしたい。

【委員】(意見)

・今回受け入れていただく学校や児童にはご迷惑がかかる。なるべく納得いただくためには、受け入れていただく学校の理科の実験道具、体育道具など、受入先の教育環境の拡充を、説明の一貫として検討いただけたとありがたい。

5 閉会

以 上

議事録署名人

吉田 あゆみ
佐藤 若菜